

## 第7回中部歴史まちづくりサミット パネルディスカッション要旨

○コーディネーター：北海道大学名誉教授 越澤 明 氏

○パネリスト：高山市長 國島 芳明 氏、亀山市長 櫻井 義之 氏、犬山市長 山田 拓郎 氏、恵那市長 小坂 喬峰 氏、美濃市長 武藤鉄弘 氏、明和町長 世古口哲哉 氏、岐阜市長 柴橋正直 氏、郡上市長 日置敏明 氏、名古屋市副市長 廣澤一郎 氏、伊賀市長 岡本栄 氏、岡崎市長 内田康宏 氏、三島市長 豊岡武士 氏、掛川市長 松井三郎 氏、伊豆の国市長 小野登志子 氏、下田市長 福井祐輔氏

### ●主な意見

テーマ①「来年の、東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催により、海外観光客の増加が予想されることを踏まえ、各都市の歴史・伝統文化・まちなみを世界中へ PR する取組について」

- ・美濃市は、和紙を通じて発展したまち。美濃手すき和紙が東京五輪の表彰状になることが決まり、現在職人の方が毎日手作業で和紙を漉いている。オリ・パラを契機に、和紙を使った観光振興を進めていきたい。
- ・明和町の斎宮跡は、史跡の指定40周年。世界中の人に知ってもらい取り組みとして、国際線機内でPR動画を放映、SNSでPR等を行っている。また、回遊ネットワーク構築を図っており、重点地区内の案内板や遊歩道の整備を進めている。自転車で周遊していただく取り組みとして、今年度からレンタサイクルの運用を検討している。
- ・岐阜市は長良川鵜飼と岐阜城の2枚看板で取組んでおり、自然の中で行う鵜飼は水害とどう向き合っていくかが課題である。今年度の新たな取り組みとして、長良川の右岸に栈敷を設けて鵜飼を観覧する「長良川鵜飼栈敷」の実証実験を実施し、外国人観光客らを招いた。また、岐阜公園内の歴史博物館では、令和2年1月からの大河ドラマ「麒麟がくる」の放送に合わせて、大河ドラマ館の開館を準備している。さらに、金華山山麓にある信長公居館跡では、信長公が賓客をもてなす際に見せたと言われる滝を再現している。岐阜市としては、それら本物を見せることにフォーカスした取組みを進めていきたい。
- ・郡上市といえば、郡上踊と古いまちなみで皆様にお越しいただいている。八幡の古いまちなみは、今年大正の北町大火からの再建100周年を迎える。11月には新たな拠点施設「郡上八幡 町屋敷越前屋」がオープン。また、郡上の城下町の成り立ちを皆様へ伝えるため、現在「郡上八幡まちなみ交流館」を建設中。外国の方も多く来ていただいているので、デジタルサイネージ等を活用した多言語化や郡上踊期間中の通訳ガイドのボランティア配置を行っている。
- ・名古屋といえば、名古屋城。現在、本丸御殿が木造復元され、大変人気を呼んでいる。また、今年5月、有松が日本遺産に登録されるという嬉しいニュースがあった。また、古い建物が残る四間道、守山の志段味古墳群など、名古屋に残る8つの歴史資産を繋ぐ「名古屋8デスティネーションキャンペーン」という大規模なプロモーションを実施している。

- ・三島から小田原までの箱根八里が、平成 30 年 5 月に静岡県内で初めて「日本遺産」の認定を受けた。また、オリ・パラの自転車競技が、県内の伊豆や北駿地域で開催されることから、三島駅に多くの外国人観戦客が来訪する事が予想される。三島市では、多言語化・キャッシュレス決済に必要となる Wi-Fi スポットの整備に対し補助金を交付し、買い物環境の整備を進めている。
- ・自転車競技はヨーロッパが盛ん。欧州の方は遺産・国宝が好き。また、ニュージーランドの選手村を伊豆の国で立ち上げる予定。韮山反射炉には、市民が立ち上げた「伊豆の国歴史ガイドの会」があり、外国語にも対応している。外国人ガイドを充実させることにより、歴史のまち伊豆の国へ外国人をいざなう事ができると考えている。
- ・下田市は、オリンピックにおけるアメリカサーフィンチームのホストタウンとなっている。黒船祭のように、アフターツアーとして、選手とそのご家族を再度下田に招待する等、文化交流を図って行きたい。また、来年 6 月には、下田を聖火ランナーが走る予定。下田の特長が表れる場所がコースになるよう、JOC へ働きかけていく所存。

**テーマ②**「歴史まちづくり法は、歴史上価値の高い建造物・まちなみに加え、地域に根ざした人々の活動を重視しています。そこで、地場産業・祭礼・地域ブランドなどを含め、都市の魅力を高める取組について」

- ・高山市は住民と共にまちづくりをすることが基本的な考え方。空き家対策においても、今後を担う若者も参加し、地域の皆様に活用方法を考えてもらい運営まで任せる「若者活用拠点施設」を整備している。もう一つは「本物を魅せる」こと。テーマパークではなく、人々の息づかいを魅せることでお金を落とししていただく。替わりに満足と共に心をお渡しすることを大事にしている。
- ・亀山市では、本年 7 月に「関の山車会館」がオープン。普段見る事ができない山車を展示すると共に、保存会の方や地域の住民が伝統を継承していくための拠点として活用していく。今後も、愚直に持続可能なまちの伝統芸能継承に取り組んでいきたい。
- ・犬山市は、20 年間歴史まちづくりに取り組んだ結果、大変賑わってきた。これを持続・発展させつつ如何に市内全域へ波及させるかがテーマ。木曾川沿いの栗栖地区では、空間の魅力を高める為、住民を中心に竹林の伐採等活動を展開している。また、犬山は夜の賑わいが課題の為、朝市の関係者や若者を中心に「夜のマルシェ」を展開している。今年は 8 月の花火に合わせて開催したが、今後は花見や紅葉の時期にも拡大していきたい。
- ・恵那市は、毎年 10 月に約 300 人が江戸時代からの伝承による衣装や道具を身にまとい、岩村町本通り（重要伝統的建築物群保存地区）を練り歩く「岩村秋祭り」や、岩村藩出身の著名な儒学者である、佐藤一斉が残した名言が書かれた 200 枚もの木版が岩村町本通りの家々の軒下に掲げられる、歴史が息づくまち。また、来年は大河ドラマ「麒麟がくる」が放送される。岩村の近くの明智城や岩村城跡を含め東濃地方の山城を紹介する活動を展開する。

- ・伊賀市は、江戸時代の藩校や明治時代の小中学校建築、近代のレトロ建築が点在している。これらの歴史資産をしっかりと整備・活用し、「誇れる伊賀・選ばれる伊賀」をモットーに、このまちを未来に繋げていきたい。また、伊賀上野城のライトアップイベント等、夜の賑わいについても力を入れていきたい。空き家の古民家を活用した宿泊施設「Nipponia」の整備を来年開始する予定。若者から運営に積極的な人材も出てきている。
- ・岡崎市内には国指定文化財の建造物が13件あり、これらを始め岡崎城などの多様な歴史文化資産を活かしたまちづくりを行っている。東岡崎駅は、現在50年に一度の大改修を行っており、駅北側デッキに「若き日の徳川家康公像」が11月2日完成予定。制作にあたり、多くの寄付金が集まったのも、市民の岡崎に対する強い愛郷心の表れと考えている。また、今年7月にリニューアルオープンした籠田公園では、旧東海道の道筋や幅を再現し、町家をイメージした日よけや屋根を持つ休憩スペースも設置した。今後これらを活用して、賑わいを創出し、まちの魅力を高めていきたい。
- ・掛川市では、三熊野神社大祭の祢里行事が、今年選択無形民俗文化財に選択された。今後重要無形文化財に指定されるよう、働きかけていく。また、横須賀城下町で開催される「ちっちゃな文化展」は、今年で21回目。生活しているお宅を開放して新鋭芸術家の作品を約70カ所で披露する。古きよきまちなみ全体を美術館として使う事で、城下町をまもっていく取組。掛川市としては、歴史文化・資産を将来に継承できるよう取組を進めていく。

【以 上】